社団法人　工学院大学校友会　第117号　44巻第1号　平成8年4月

校友会報 117

目　次

新宿に来て・見て下さい
　南雲　芳夫……1
新しい時代に向けて
　北郷　　薫……2
日本の製造業はこう変わる
　只野　文哉……3
ソーラーカーの研究
　住野　和男……6
学園だより
　大勝　靖一……8
平成7年度支部総会報告…10
盛況！工院大異業種懇話会
　京滋支部……12
部会報告……13
総会開催のお知らせ……14
お知らせ……15
震災募金者名簿……16
決算予算……18
編集後記……20
全国大会のお知らせ……21

新宿に来て・見て下さい

校友会会長　南雲　芳夫

今年の寒さはいかにも冬でした。何かそれらしいというのが久方ぶりの感が致します。安堵感があります。春も春らしかったし、だから夏も夏らしいことを期待しています。校友各位におかれては公私にわたって各界にてご活躍のことと存じます。

始めに、やはり阪神大震災で大変な被害をお受けになった校友及び学園の関係各位に、「ともかく頑張って欲しい」と工学院校友全員が心から願っていることを記したいと思います。あれから早くも一年です。そこに住み生きる人間にとっては、時の経過と共にその爪痕のひどさが消えるのではなくより赤裸々になっていくものだということを私たちも知りました。校友会としてもご援助の手伝いぐらいはさせていただきましたが、とてもとても及ぶものではありません。

前回の会報（116号）に、神戸支部の石田俊文氏（建築・昭和49年卒）の、地震後の火災と崩壊の煙がまだ漂っているような緊迫した手記を掲載させていただきました。今日、少し冷静に読み直すと、不運に対する悔しさとそれでもやり直さねばと言う敢闘精神に思わず目頭が熱くなります。神戸でこんな人にも会いました。震災で学んだ命の大切さ、そして人と自然とのつながりの中から「食の自給」を見つめ直している方でしたが、「地震直後水が不足していた。でも、目の前にある川は汚れているか、コンクリートで固めているかで、汲もうにも汲めない。だいたい川に降りる階段さえなかった」と言う。都市では川一本でさへ私達から遠ざけられています。見慣れた当たり前の風景がとんでもないものに見えてきました。

暮らす人間にとって優しい社会への変革が盛んに言われています。学園の新時代への対応もこのあたりに進む方向があるのでしょうか。修学人口が激減する中で本学園の各学校の志願者が去年ぐらいから少し増えてきたと聞いています。更に、高等教育で大切な大学院部門の充実はこの数年の間に目を見張るものがあります。私たちの学園の技術教育が着実に成果を上げているのでしょう。工学院からの新しい人材が、時代に歓迎され活躍をする場所がすぐそこの手の届く所にあるように思えてなりません。

何かにつけて学園に皆さんが立ち寄ってくれるような雰囲気を作ること、これが校友会の重要な仕事の一つです。当面の大きなイベントとしましては、新時代の期待を背負った【新宿テクノキャンパス】にて、永年の夢が叶ったことを祝って《本年の10月26日》に校友会の全国大会を《全国2000名大集会》と名付けて計画しております。ご家族と共に是非新しい私たちの学園を見に来て頂きたい。更に更に全国の校友諸氏の友情とご協力をお願い致します。最後になりましたが、各位のこの一年のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

新しい時代に向けて

理事長　北郷　　薫

校友の皆様方におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととおよろこび申し上げます。

平成７年（1995年）５月に、本学園の新宿校地再開発工事第三期工事が竣工しました。この第三期工事による、公開広場（工学院大学エステック広場）および、同広場下の工事が竣工したことによりまして、昭和62年（1987年）７月に、第一期工事に着工して以来、８年に及ぶ本学園の一大事業であった新宿校地再開発工事が全て完了いたしました。

本学園の新宿校地再開発工事は、同校地で本学園の教育、研究活動を継続しながら遂行いたしましたので、それだけ期間も長くなり、余分の費用もかかりました。

しかし、これが最善の方法であるとの判断から、このように三期に全工期を分けて遂行したものであります。結果的にも成功し、すでに新校舎高層棟は、平成元年（1989年）から、中層棟は、平成４年（1992年）から活用しています。

工学院大学の新宿高層棟新校舎を知らない人は次第に少なくなっていると考えられます。

ご承知のとおり、日本の18才人口は、平成４年のピーク値205万人から急速に減少し続け、平成８年には172万人になります。この比率から見ますと、各大学学部、専門学校等への入学志願者は、平均してこの減少比率に応じて減少するはずです。

事実、日本全体における統計的数字はこの傾向を示しているようですが、本学の大学学部への入学志願者数は、昨年の平成７年度は、前年の６年度にくらべて５千人近くも増えました。この原因としては、本学が昨年度に初めて「入試センター利用」試験も導入して、ここに4,815人もの志願者があったことがあげられていました。したがって、同制度導入２年目の本年度が試金石となる年度であると見ていました。

私は、昨年と同じであれば十分であると言っていたのですが、本年度の大学第１部の前期一般入試志願者数は、前年度より1,744人増えています。「入試センター利用」試験の志願者は407人だけ前年度より減少しましたが、一般入試の志願者増がきいて、合計ではすでに約1,300人の増加であります。まだ、本年度は後期入試が残っていますが、最終的にも約1,300人の志願者増になると予想しています。

最近は大学院へも修士課程で200人をこえる入学者を確保できています。本学園の附属高等学校は、日本の15才人口の減少にもかかわらず、堅実に入学生を確保しております。

平成８年度から再開する附属中学校の評判も良いと聞いています。

本学園において、永い伝統を守っている専門学校は、現在、18才人口の減少の影響を強く受けていますが、本学園一丸となって専門学校を特色ある学校として隆盛に導くよう努力しています。

本学園は、平成８年度から同12年度（1996～2000）までの将来計画を「学園５ヶ年計画－ジャンプ21－」と名付け、いま、その計画に従って、全学園を21世紀へ向かって発展させるように活動を展開しています。

どうか、校友の皆様方におかれましては、皆様方の母校である本学園をご支援下さるようお願い申し上げます。

私達、本学園に現在、在職する者にとりましては、本学園の卒業生である校友の皆様方の社会の各方面における活躍を見ることが何よりの喜びであります。

校友の皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

日本の製造業はこう変わる

学校法人工学院大学顧問
㈳科学技術と経済の会常務理事
工学博士　只野　文哉

本文は1996年２月24日に開催された工学院大学電気系創立40周年記念講演会でお話ししたものの要約です。

はじめに

私は大正15年（1926年）７月に、当大学の前身である工手学校電工科（夜間）を卒業いたしました。もともと工手学校は、東京京橋の築地にありましたが、大正13年（1924年）９月１日の関東大震災で焼け出され、ここの敷地にあった日本中学校の木造校舎に間借りして、夜間、私たち勤労青年に技術の実科を教えていたのです。それから70年、学校も発展いたしましたが、世の中もすっかり変わりました。

そこでまず、日本の工業社会がどう変わってきたかという事からお話ししたいと思います。

１．企業を取り巻く環境の変化

図１に見るように、1900年以来、長年続いた日本の経済成長は、'90年を境にして頭打ちとなりました。それと同時に賃金が米国に比べて、1.6倍と高くなり、インフラ経費も割高となって、海外特にアメリカや東南アジアといった需要地でモノを作るという動きが急ピッチで進んでおります。欧米と違い、日本では労働力が国境を越えて移動しがたいので、製造部門が海外へ移りますと、足下の製造業とくに裾野に当たる中小製造業の衰退が問題になって参ります。とはいうものの製造業の海外移転は進めねばなりません。

２．米国産業界の変貌

米国の企業が息を吹き返しております。その起爆剤となったのは、1980年後半、マサチューセッツ工科大学（ＭＩＴ）が実施いたしました、アメリカ産業の生産性向上プロジェクトでした。

この調査は、アメリカ企業の国際競争力低下の原因を、生産性の立場から検証したものです。皆様がご存知の通り、いまやアメリカの製造業は、リエンジニアリングとか、リストラクチャリングといった後ろ向きの贅肉落としを終え、成長（Growth）に向かって力強く走り出しております。

米国の企業は、'80年代に日本の製造業に追い越しされたことに危機感を募らせ、企業を活性化する経営マネージメント手段として「ベンチマーキング」を導入いたしました。

ベンチマーキングとは何ぞや、ということにつきましては、例えば「ベンチマーキングの理論と実践、ハーバード・ビジネス編集部」など好著がありますので、ここでのお話は省略いたしますが、一言で言うと「成功企業に学ぶ」というものです。私たちが、1955～1970年代にやったＱＣ活動とよく似ており、「業界で評判が良く、業績の高い非競合企業を選び、ギブ・アンド・テイクの精神で、開発、製造工程の改善、効率化、自動化、外注加工費の削減、内製化、生産拠点の海外移転、人員削減などの Best Practice を調べ上げて自社の生産性向上の指標とする」というものです。

表１に、米国の企業がベンチマーキングを始めたときの実施例です。

ベンチマーキングを効果あるものにするためには、Give and Take の精神が大事です。もう一つ、最高の

図１．先進国の工業生産指数―長期推移

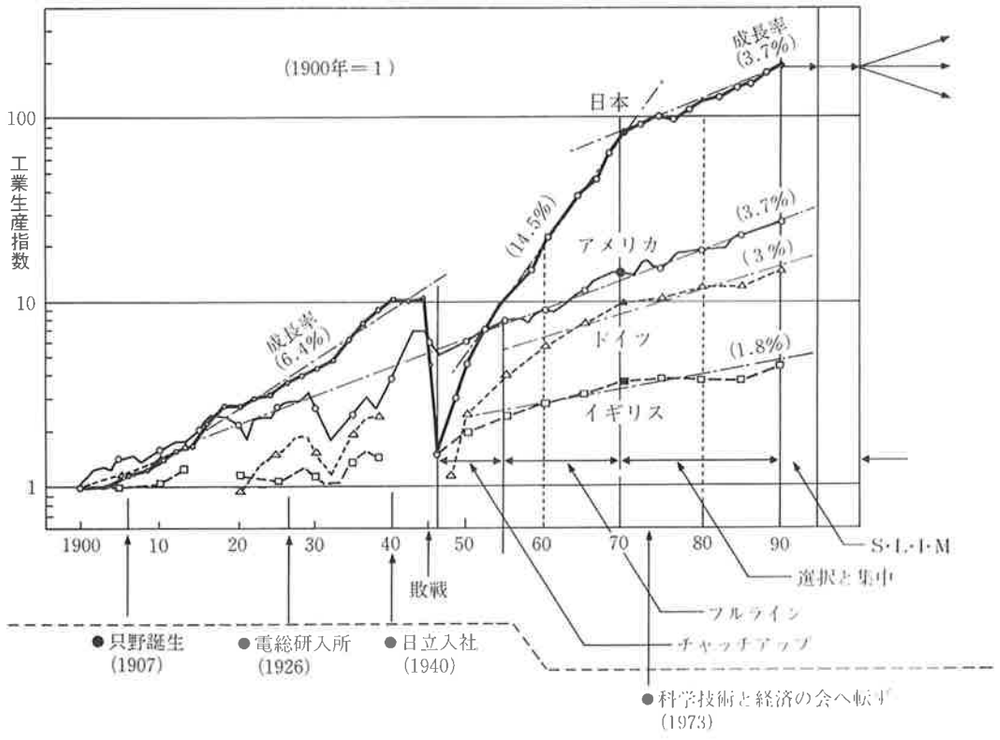


表１　アメリカ企業に浸透するベンチマーキング

導入企業	クライスラー	ヒューレット・パッカード	テキサス・インスツルメンツ（防衛システム・エレクトロニクス・グループ）
ベンチマーキングターゲット	本田技研工業 ＧＥ	社内の他部門	同業他社 メアリー・ケイ＊化粧品メーカー マリオット＊ホテル業
	製造サイクル 受注・出荷サイクル	新製品開発	仕入業務 棚卸管理 ＣＳ（顧客満足）戦略
ベンチマーキング後の効果	受注から出荷までのサイクルを８カ月間で、従来の80日から37日までに短縮。	(1)新製品の「インク・ジェット・プリンター」の開発において、当初目標の４年を１年10カ月に短縮。 (2)CADプログラムの開発において、当初目標６年を13カ月に短縮。	(1)納入業者数を、1800社（1990年）を1200社（1992年）に削減。 (2)100万当たりで見たディフェクト（欠陥）を、１万8000件（1988年）から、5700件（1992年）にまで減少させる品質改善に成功。 (3)仕入受注のサイクル・タイムを、従来の10日間（1990年）を、４日間（1992年）に短縮。
備考・その他	★1980年代の外国車の攻勢に対抗すべく、ベンチマーキングを導入。結果、品質、コスト、時間のバランスよい管理という果実を獲得。	★ベンチマーキング活動は、1986年から1994年まで継続された。	★1992年、マルコム・ボルドリッジ賞を受賞。 ★1994年、APQC（American Productivity and Quality Center）のIBC（International Benchmarking Clearinghouse）主催によるベンチマーキング大賞において、銀賞を獲得。

＊ベンチマーキングの理論と実践；ダイヤモンドハーバードビジネス12～13頁より引用

相手企業と手を組むことが必要で、それには、秘密主義を捨てて、自ら開示し謙虚に相手と協力し学び合うという協学の精神が基本です。顧みますと、ここ10年、私たち製造業は他に学ぶことを忘れ、「唯我独尊、世界一強いんだ」と自惚れすぎたのではないでしょうか。

お互いに学ぶということから見て、今日の電気科同窓卒業生の集まりも、単なる「仲良しクラブ」で終わるのではなく、信頼を深める絶好の機会と捕らえ、お互いに手の内をさらけ出して学び合い協力し合うのだったらいいなあと思います。

3．企業経営の見直し

品質がいい、サービスが万全、そのうえ世界一安い、ということで世界のマーケットを席捲してきた日本企業独自の経営が壁に突き当たってしまいました。輸出超過－黒字拡大－円高－コスト高騰－製造拠点の海外移転－国内企業の空洞化、という悪しき循環が起こっております。

(1)　企業間過当競争の反省

今日の日本経済発展の原動力は、「日本人の勤勉さと企業間競争による活力」だったと思います。その一方で、ある製品が儲かると分かると、多くの企業が雪崩を打って参入し、過剰設備投資－過剰生産－値下げ競争－収益低下－赤字転落という、シェア獲得・欲ボケ競争に陥っております。

日本の製造業は、横並びの過当競争から脱却しないと、いたずらに経営資源を浪費することになってじり貧となりましょう。

(2)　Dry 製品と Wet 製品

私たちが私用、公用を問わず、モノを購入するとき、あの会社の製品を買いたいというモノもあるし、どこの製品でもいい、安くて長持ちさえすれば、というものもあります。私はこのような購買心理を次のように言っております。

Ｄｒｙ製品：例えば普通の家電製品のユーザーは気の赴くまま Dry に、Ａ社製品からＢ社製品に切り替えることが出来る。サービス、使い勝手の良さ、品質、性能、価格が似たり寄ったりだからである。

Ｗｅｔ製品：例えばＶＴＲやコンピュータがそれで、エンドユーザーはソフトに縛られ、一度ある機種を購入すると、ソフトに縛られ他社製品への切り替えが出来なくなる。de-factstandard 製品もその１つで、パソコンやＯＡ機器をはじめとして、ＯＡ、ＦＡ、ＬＡＮなどの上位情報システムは皆 Wet 製品である。

今後の事業展開に当たっては、いかにして一度掴んだ顧客を引き留めるかの Wet 製品戦略が大事となります。

4．コア製品の活性化と新規製品の開発

基幹事業（Core Business）で着実に利益を上げ、新規事業（Wet Business）を育てていくのが事業経営の基本であることは申し上げるまでもありません。コアビジネスが火の車になってからの事業転換は、従業員の大幅削減などの激痛を伴います。

わが国には明治以来、造船や鉄鋼工業、重機械工業、建築、土木などで蓄積してきた膨大な人材と基盤技術があります。それらの成熟技術とハイテク技術、特に最近の情報通信技術と組み合わせをうまくやれば、応用範囲は実に広く、事業の発展は「やる気次第」と言っていいでしょう。

新製品や新事業の開発で大事なことは「はじめに仮説ありき」（シャープ㈱顧問　佐々木正氏：クレスト社出版／1995年11月）を原則とすることだと思います。「こうなるだろう」、「こうなるに違いない」という仮説をたてて、一歩一歩着実にその実現に向かって開発を進めていくのです。

私は1940年、日立製作所の研究所で電子顕微鏡の研究・開発に手をつけました。その時の仮説は、光学顕微鏡では見ることの出来ない千分の１ミリメートル以下の微小なモノを見ようということでした。55年たった今、千万分の２ミリメートルという微小体まで見ることが出来るようになりました。そして思いもかけず、私の後輩が着想した測長型・走査電子顕微鏡が今、ミクロン加工を必要とする半導体ＩＣ工場の生産ラインにずらっと並んで使われているという盛況で、まさに私の仮説が実りつつあると言っていいでしょう。

5．むすび

世の中で必要とされる企業は繁栄し、必要とされなくなった企業は衰退するのは、世の習いです。いま日本の産業界には、ＩＴ（Information Technology）革命の嵐が吹き荒れようとしております。技術、経済、社会、国際環境は日に日に変化しております。皆さんはその変化に前向きに取り組み、実行に移し、辛抱強く成果の上がるのを待つ覚悟が必要です。時には、リスクのあるベンチャリング活動も必要でしょう。それが、いつしか会社の繁栄に繋がっています。

皆様のご繁栄を願って私の話を終わります。

ソーラーカーの開発

工学院大学専門学校主理　住野　和男

人類は火を発見して以来、薪や木炭などをエネルギー源としてきました。産業活動が活発になると石炭が利用されるようになり、現在では石油、天然ガス、水力、風力、原子力等のエネルギーが加わり、その中でも安価で便利な石油がエネルギーの主役になっています。これらのうち石炭、石油、天然ガスなどは化石燃料と呼ばれ、あと数十年から数百年のオーダーで枯渇してしまう有限なエネルギー源なのです。

そこで、昨今話題になっている省資源、無公害である自然エネルギーの積極的利用が早急の課題となっています。その中でも私達は太陽エネルギーの有効利用を積極的に推進しております。

太陽から送られてくる光と熱は１時間で、今日世界で消費している１年間のエネルギーの２倍に相当するエネルギー量があり、地球表面では１平方メートルあたり約１ＫＷのエネルギーに相当し、クリーンで永久に使用できるエネルギー源だからです。

私達はこの太陽エネルギーの有効利用と未来の

可能性を追求するために、２年前から「ソーラーカー」に関する技術開発に取り組んできました。

学生達は車という乗り物に非常に興味があり、太陽エネルギーを動力として走行できる「ソーラーカー」を製作することにより、学生達の工学的知識の探求、省エネルギーに対する認識や、今日私達が直面している環境問題への関心を深め、エネルギーの大切さ、物造りの楽しさを経験を通して学ぶことができます。

「ソーラーカー」は新しい乗り物として今日注目されるようになり、各地でイベントや競技会が開催されるようになってきました。私達は２年前からこの種の競技会へは、既にある「省エネカー」（１リットルのガソリンで何キロ走行できるかを競う競技車）を「ソーラーカー」に改造して出場してきましたが、「省エネカー」との共用であるため何かと不便を感じており、新しい「ソーラーカー」を製作することにしたのです。

製作は、10月に千葉県の幕張で開催される「朝

日ソーラーカー・ラリー」競技会への出場を目標に、新入部員が入った５月から設計を始め、夏休みを返上しての製作となりました。

車造りに関しては、今までの「省エネカー」で蓄積された製作技術はありますが、今回はフレームを使用しないでボディとシャーシを一体にしたモノコックボディ構造としたり、材料にはカーボンファイバーとケプラー材を使用するなど、新素材と新構造に挑戦しました。これは車造りに最も大切な軽量化に十分役立ち、強度も十分に確保することができました。

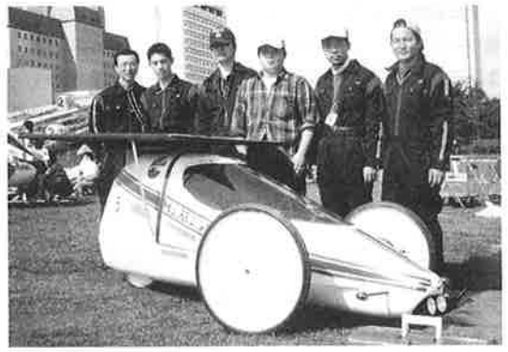
太陽電池には最大総発電量224.5W（44.9W×５枚）の単結晶シリコン太陽電池を使用しました。モーターは600Wの直流モーターを使用し、速度制御にはＰＷＭ制御方式を採用してスムースな加速を実現しました。また、蓄電池を搭載して走行中はバッテリーに充電しながらの走行が可能です。

音もなく、太陽が当たっている間中走行できる「ソーラーカー」は正に近未来の車と言った感じです。

完成したのは競技会２日前でした。早速テスト走行を早朝に行いましたが、トラブル続出です。ブレーキの効き具合が悪い、ギヤ比の設定が悪い、駆動系の強度不足によるチェンの脱落等……この中でも、チェンの脱落が一番問題でした。強度不足による駆動系の変形だったからです。大幅に改良しなければなりませんでした。

早速車を持ち帰り、改良が始まりました。徹夜作業の末、大会前日の夜遅くになんとか完成しました。もうテスト走行を行っている時間はありません。仮眠をしてから積み込み作業を終え、大会会場に直行です。車に対する不安を残したまま……。

大会当日、正にソーラーカー日和と言うのにふさわしい快晴でした。組立調整後、車検も無事にパスして学生達も今までの苦労が吹き飛んだ様子



でした。

今回出場した「朝日ソーラーカー・ラリー」は朝日新聞社が主催し、エネルギー問題、環境問題への関心を高める目的で開催されている競技会で、今回で７回を迎えます。開催は平成７年10月９、10日千葉県の幕張を会場にして２日間の日程で行われました。１日目は「ソーラーカー」の展示、車検、最高速競技とブレーキテスト、そしてテスト走行が行われました。２日目はジムカーナ競技とラリー競技の２種目で競われ、２日間の総合点で順位が決定します。

私達は学生クラスで参加し、学生クラスで６位、総合で20位という成績で、学生共々満足のいく結果を得ることができました。

当日は、朝日テレビの取材があり、その日の夜の番組で放映され、学生達にとって良い思い出になったことと思います。

思えば設計から始まって製作まで約半年間、私も学生達も目的に向かって気力で頑張ってきました。いっしょに頑張ってきた学生達も、この春には社会人となって巣立って行きます。今後、学生達がこの経験を活かし、どんな困難にも立ち向かって活躍してほしいと願って止みません。

この「ソーラーカー」を製作するに当たり、校友の皆様方のご理解、ご協力がありましたことを申し添え、ここに深く感謝申し上げます。

開かれた学校法人工学院大学をめざして

前 学務・企画担当常務理事　大勝　靖一

学園の最近の動き

本学園は、新しい学園の在り方を模索する中で、開かれた学園と産官学の協調を柱に教育・研究を進めるべく種々の施策を行いつつある。４月より工学院大学附属中学校を開設したが、これは高校の定員を中学校に振り代え、一学年80名の規模でスタートする。中味は、附属というよりも他大学への進学を意識した、しかしゆとりあるカリキュラムで中・高一貫教育を行うというものである。また一方で一昨年４月には、大学院の更なる拡充を目指して、情報学専攻を新設し、修士課程と博士後期課程とを同時に開設した。この専攻は大学院設置基準の14条特例を生かした昼夜開講制を敷いており、企業の理解を必要とするが、在職したまま大学院に進学できる道を開いた。この制度は、続いて機械工学専攻、工業化学専攻、建築学専攻に、さらに本年４月からは電気工学専攻にも認可される運びとなった。定員もここ数年で大学院全専攻修士課程の合計で一学年190名の規模にまで拡大した。このように本学園では教育組織を上下に延ばし、社会の人口動態に適合した教育体系に整え、更には中味の充実を計って社会の要請に応える努力をしている。

周知のように学園の新宿校地の開発は昨年５月に無事完了した。この開発に伴って学生募集を一時中断していた第二部（夜間教育）を再開して、昨年３月には初めての卒業生を世に送り出した。この第二部は旧来とは違うカリキュラムで運営されているが、まだ不十分なところもあり、大橋学長のもとで改革されつつある。新第二部は単なる技術者の養成を目指したものではない。在来の工学教育体系ではどうしても網羅できない複雑な社会の変革の中で、「工学的知識と文系的発想の融合」という考えのもと、文系大学出身者の中で工学を学びたいと思い直した社会人や進路を再選択したいと考えている社会人に対して門戸を開いたのである。その広報の効果が徐々に出てきており、昨年４月には１学年の定員430名の約20％に迫る社会人が編入学試験に合格し、入学した。

生涯学習への積極的取り組み

現在、自分自身を研鑽しようとしている社会人は非常に多い。学園はこのような社会人に対して、「随時学びたい時に、学びたいことが学べる」という生涯教育の機会を提供する責務があると考える。また大学院においても、社会人対象の専門講義を行い、企業で実務を担当する者と学識者との意見交換の場を持つことが必要であろう。

本学園企画部の「生涯学習センター」による社会人向けの公開講座は昨年で７年目という実績がある。多くの大学で同様の催しが行われているが、本学の講座は評価が高い。多くは工学系の講座という側面はあるが、社会の直面している問題をシリーズで取り上げ、いろいろな角度から、また幾分掘り下げて講義しているからであろう。それに加えて更に一昨年より工学院大学大学院公開講座を始めた。上述したような立場から幾分レベルの高い講義である。

実はこれらの公開講座も最初の頃は苦労が多々あった。予定を下回る人数しか来てくれないこともしばしばあった。しかし回を重ねるにつれて聴講者の数も増加し、今ではどの公開講座をとっても定員を越える盛況である。多い時には、300名

の定員に対して550名が参加したために別教室を準備したこともあり、ますます期待が高まっている。

大学は、全国各地において父母懇談会を開催している。大学の教職員はこれらの会に出席し、各地における生涯教育の在り方について些かでも認識できる機会を持っている。結論から言うと、大変貧弱なことではあるが、各都市の生涯教育に対する取組方は非常に前向きであるにも拘らず、予算的裏付けが不十分であることを知った。このような状況にあって、本学園は、本学園の公開講座を聞けない遠方の社会人に対して本学園の知的財産を提供するために、昨年より「出張公開講座」を始めた。昨年度はどの程度の反響があるか分からなかったので、主に関東以北の諸都市に働き掛けをしたが、12件の講師派遣の要請があり、大学の先生にご足労頂いた。あまり教員の負担にならないように配慮しつつ、本年度は幾分呼び掛けの都市数を増やす積もりである。

地域との連携

本学園は、学園全体として社会と連携するいくつかの催しを行っている。八王子校地で行われる「大学の先生と楽しむ理科教室」は、大学の教員が主体となっているが、高校・専門学校の教員の協力も得て開催されている。小・中学生が自分の手で、物に触れ、また物を観察しそして作る喜びを知ってもらうことにより、子供達の理科離れを幾分でも食い止めようとする努力である。昨年度は8月に2日間開催したが、5000人を越える人が集まった。この催しは近隣都市の教育委員会の後援を得、まさに教員、事務職員、学生が一体となって、またボランティア的に行っているものであり、頭の下がる思いである。アンケートによれば、この催しは非常に好評で、毎年の開催を望む声が多い。一方規模は小さいが、日野市教育委員会の要請を受けて、日野市の小学5、6年生を対象にした理科教室にも協力している。昨年は2年目になるが、高校と専門学校の先生が理科実験の指導を行い、小学生に好評を得た。本学園のこのような地道な企画が子供達の理科への興味を引き出し得たとしたら、将来の本学園、しいては日本にとって非常に喜ばしいことである。

一方専門学校は、日本工業新聞と協力して社会人に対する生涯教育に取組むため、職業人再教育研究会を発足した。短期間（3～6か月）の講座を用意し、社会が必要とするテーマをタイムリーに取り上げ、専門学校生徒数の減少に対処しようとするものである。当面「木造建築の耐震化」、「インターネット」等の講座開催により、職業人の再教育に取り組むことになった。専門学校の活性化、経営基盤の強化を計る初めての試みである。

その他の施策

大学では、全国約6000高校に対して、大学への推薦入学とクラブ活動のための賞金を付した「理科学クラブ研究論文」募集という理科教育の啓蒙活動を行っている。100論文程度の応募があり、昨年度は4人の推薦入学を認めた。この企画は地味ではあるが、工学院大学の知名度を上げるのに効果的に働いているようである。

以上、学校法人工学院大学の社会に対する働き掛けの現状とそれに対処するための学園の体制について概述してきた。これで十分と言うわけでない。以後、実績を踏まえ、本学園本来の教育に支障のない限り、地道な広報活動をしたいと考えている。このような活動を通じて本学園の社会における存在意義がますます高まり、高い評価がえられるようになると信じている。校友の皆様のご支援・ご理解を願い、また新しい提案を待つ次第である。

平成7年度支部総会報告

平成8年1月迄に36支部にて開催されました。支部活動も年毎に活発になって参りましたので、今回は支部より送って戴いた写真によってご紹介しました。元気な皆様の様子をご覧下さい。

95.4.16　長野県支部総会　於松本市東急イン

95.6.11　埼玉西支部総会　於東松山市紫雲閣

95.9.10　北海道支部総会　於札幌市ホテルKKR札幌

95.6.25　熊本県支部総会
於熊本市産業文化会館

95.5.21　栃木県支部総会
於宇都宮市ホテルニューイタヤ

95.9.30（写真の日付は誤）青森県支部総会（新旧支部長）　於八戸市はちのへハイツ

96.1.27 愛知県支部新年会 於名古屋市メルパルク名古屋

平成８年度支部総会開催予定

会報の原稿締切日現在でご連絡ありました支部総会の開催予定は下記の通りです

清水建設支部　4／10（水）
清水建設本社内　18：00
岐阜県支部　4／13（土）
岐阜市　岐阜キャッスルホテル
山口県支部　4／14（日）
宇部市　国際ホテル宇部　12：00
栃木県支部　5／19（日）
宇都宮市　ホテルニューイタヤ　13：30
岩手県支部　5／25（土）　盛岡市　14：00
宮城県支部　6／1（土）　未定　17：00
大阪支部　6／1（土）
奈良猿沢荘　18：00
山梨県支部　6／21（金）
甲府市　シティプラザ紫玉苑　18：30
東京新宿支部　6／22（土）
工学院大学新宿校舎内　18：00
埼玉県西支部　6／23（日）
東松山　紫雲閣　15：00
熊本県支部　6／23（日）
産業文化会館　13：00
高知県支部　6／29（土）
高知市　魚竹　18：00
東芝支部　7／5（金）新宿校舎　17：00
神奈川県下５支部　7／6（土）　14：00

千葉県支部　7／7（日）
ちば玉姫殿　12：00
青森県支部　7／27（土）
青森県東通尻屋　15：30
島根県支部　9／7（土）　浜田市　15：00
長野県支部　9／14（土）
上田市　ささや　17：00
北海道支部　9／14（土）　札幌市　18：00
台湾支部　9／30（月）
台北市内　餐廳　18：30
八南支部　10／5（土）
八王子労政会館　17：00
日本電気支部　10／25（金）　18：00
東京支部　10／26（土）新宿校舎　11：00
新潟県支部　11／3（日）
新潟駅前　安兵衛　13：00
大分県支部　11／9（土）
大分市　豊後灘　17：30
京滋支部　11／23（土）　京都　15：00
中野支部　11／中旬予定　18：30
静岡県支部　9月以降開催予定　浜松

（お願い）支部の皆さん、総会の様子など写真を添えてお知らせください。

盛況！工院大異業種懇話会

校友会　京滋支部

京滋支部からお便りします。

我が京滋支部は昭和54年12月に大阪支部の北摂地区、京都府、滋賀県の会員で分離設立され、現在２代目の支部長伊藤肇氏（昭和40年卒）のもと会員数約130名の若い支部です。

初代支部長は大先輩石川太一氏（大正10年卒・現顧問）をお願いし、第５回全国大会（京都大会）を大阪・兵庫支部のご支援のもと、開催した由緒正しい支部（？）でございます。

その後の支部活動は夏の納涼会、冬の忘年会、総会等の親睦を中心とした、やや低調でマンネリ化したお恥ずかしい状態です。

会員数はかなり居るものの、出席者はいつものメンバーで、何か支部活動を活性化させる（その様な大げさなものでないが）良い妙薬はないものかと、昨年の総会時に意見がありました。

そこで飲み会で色々と話題になる、各人が持っている専門性や情報をほんの少し真面目に発表しあい、相互啓発を行う場作りをしようではないかと…名称は大きく「工院大異業種懇話会」と名付け、３ヵ月に１度の第２土曜日に開催することにしました。

これで、飲みに行くのでなく学習に行くのだと、家族にも胸を張って出かけられると言うもの…（なかなかの迷案）

第１回は支部長伊藤肇氏（昭和40年設備卒）の

「某大社の改修工事秘話」、第２回は樋口勇氏（昭和37年電子卒）の「ＰＬ法まもなく発効」、第３回は鮫島貞一郎氏（昭和38年工化卒）の「フロン代替え洗剤について」、第４回は澤井年治氏（昭和40年機械卒）の「合繊機械の高速ローラー」と１時間程度の熱演と質問や情報交換となかなか真面目な取り組みとなりました。その後の酒を入れての懇談会では楽しい語らいと次回のテーマを選び懇話会の終了となります。

校友での気安さで、それぞれの専門性や経験談を披露していただく事が、メンバーの貴重な糧となり、参加する事に意義を感じていただければ幸いと思います。ただの同窓会でなく、集まる目的とか、何かメリットがある会になる事を望んでいるところです。

１年間を振り返れば、参加メンバーが少しずつ増えてきた事と、ＰＬ法の樋口氏がこの懇話会の縁で、日本機械学会や滋賀県機械金属組合のセミナーでの講師として招かれ、懇話会の輪が少しづつ広がって来ており喜んでいます。

次回は村崎裕氏（昭和46年電気卒）の「オープン化に向けてのＰＬＣの動向」を２月に開催予定で、案内状の発送数も増やしていく予定です。

お問い合せ　0775（89）2169
木村左右吉（昭和41年機械卒）

●部会報告

総務部

本年は学園の役員等の改選期であり、校友推薦の役員等は次の方々です。

理事：南雲芳夫　恒松良一

監事：北澤興一　河本洋次　上野寿幸

評議員会議長：寺島敬二

評議員：榎本忠良　笠原又一　梶野和己
片岡国牟　佐合道也　笹原　克
高木雅行　高橋静昭　田中博国
谷口宗彦　恒松良一　寺島敬二
長坂舜二　南雲芳夫　西尾順文
松為迪夫　間宮眞佐人　宮澤正義
吉岡利幸　吉岡暘一

平成７年度会議開催状況

常任理事会（９回）	理事会（５回）
総務部会（６回）	財務部会（１回）
広報部会（６回）	企画部会（１回）
事業部会（３回）	組織部会（２回）

本年１月より事務局長であった吉岡氏（学校法人職員）が八王子校舎（生協理事長兼任）勤務となり、局長がしばらく空席となります。会員の皆様にはご迷惑をお掛けしますが、恒松副会長と宮澤でがんばりますのでよろしくお願いします。

（総務部長　宮澤正義）

財務部

新体制の財務部にとって、震災募金の会計処理をはじめ、文部省の指導に基づいた費目変更と事業費の充実が課題でした。また、維持協力会費や受取利息の大幅な減少下での東京大会等の事業推進財源の確保と難題続出の年度でした。

その中で学園祭援助、野球部１部リーグ昇格祝金、中学校新設祝金、体育会ＯＢ会援助を通して、学生生徒支援活動に少しでも貢献できたと考えております。

①収入

※会費収入は（値上により）増加しているが維持協力会費、受取利息は大幅減少

※前受け会費の高校分を３年間高校同窓会に留保

②支出

※文部省の指導に基づき費目変更と共に事業費支出増に努めた（学園祭援助金 etc）

③震災募金の件

震災募金のお願いに対して、支部、同窓会、個人それぞれの立場から予想以上のご支援を賜りましたことに御礼申し上げるとともに、今後とも会員の皆様方のご協力をお願い申し上げます。

（財務部長　谷口　宗彦）

◆附属中学校順調にスタート

中・高一貫教育によるレベルアップを目指し、平成８年４月中学校を再開した。初年度の志願者は定員80人に対して641人と順調なスタートとなりました。

◆校友会事務局からのお願い

センター試験（１月中旬）、入試（２月上旬および３月上旬）の期間中は、校舎に入ることが出来ません。この時期には、必ず電話等で確認の上、ご来校下さいますようお願いします。

社団法人 工学院大学校友会

第51回評議員会 第40回総　会 開催お知らせ

会長　南雲　芳夫

日　時　平成８年５月26日（日）12時30分～16時

場　所　工学院大学新宿校舎高層棟３Ｆ
０３１２教室　大階段教室

議　案　第１号　平成７年度事業報告、収支決算報告書並びに財産目録承認の件
◎同上監査報告
第２号　平成８年度事業計画（案）並びに収支予算（案）承認の件

（注１）　本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答ください。

（注２）　施行細則第13条により、当該議事について意思表示のない場合は、同意の意思表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。

総会当日のプログラム

受　付	工学院大学高層棟３Ｆ	12時より
挨　拶	会長・理事長	12時30分より
講　演	多摩大学学長クラーク氏	13時より
表彰式	優秀学生	14時30分より
議　事	総会・評議員会同時開催	15時より
近況報告	学長・校長	16時より
懇親会	28Ｆ	16時30分より

記念講演『誤解される日本人』
多摩大学学長グレゴリー・クラーク氏
日本人を良く知っている外国人として有名、日本各地で講演を開催
1936年生イギリス生まれオーストラリア育ち、オックスフォード大学修士修了。
オーストラリア外務省（香港・ソ連）、上智大学教授を経て多摩大学学長。大蔵省・通産省・労働省・法務省・運輸省・建設省等委員を歴任。

維持協力会費納入のお願い

現在本会は学園の各校に入学する学生・生徒の入会金で運営しております。

会員数は毎年増加しますが、入学生は一定ですので運営費が不足してまいります。そこで会員の皆様に維持協力会員になって会費納入をして頂き、その３割を納入者居住地の支部に還元しております。（７割は本部積立金）

昨年は阪神大震災と重なったため、例年より200万円程減になりました。不況の中ではありますが、是非ご協力の程お願い致します。

● お知らせ

表彰（平成７年度総会に於いて）

(1) 退任役員感謝状贈呈

副会長　関戸　皎、南迫哲也、小高鎮夫

理事　杉山助一、上野寿幸、荻島　泉、青野　毅、高木成幸、田積　晃、金尾武彦、山本　清、高橋孝治、瀧島平八郎

(2) 全国大会開催感謝状及び震災募金贈呈

兵庫県支部長　岡本聖治

副支部長　奥浜良明

(3) 寄贈感謝状

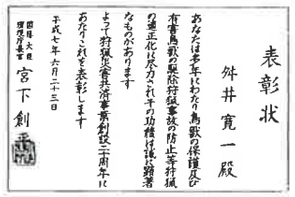
山口県支部　吉永浩三

(4) 学生・生徒の表彰状贈呈

種別	学科学年	氏名
大学	第１部　機械工学科２年	友田　裕基
	〃　〃	高科　英一
	第２部　機械工学科２年	古賀　宏志
	第１部　応用化学科２年	小丸　貴史
	化学工学科２年	佐藤　豊
	第２部　工業化学科２年	星野　晃輝
	第１部　電気工学科２年	丸山　浩明
	電子工学科４年	石原　明彦
	第２部　電気工学科情報工学コース３年	伊藤　好弘
	第１部　建築学科建築学コース２年	伊勢　薫
	〃　都市建築デザインコース２年	上野　香織
	第２部　建築学科２年	久野　佳昭
大学院	工学研究科機械工学専攻	青江　忍
	工学研究科工業化学専攻	宮崎　幸造
	工学研究科電気工学専攻	畠山　忠雄
	工学研究科情報学専攻	松橋　聡
	工学研究科建築学専攻	渋谷　政幸
専門学校	昼間部　機械科１年	吉水　洋俊
	建築科１年	山下　陽代
	電気技術科１年	水谷　祐子
	夜間部　建築科１年	酒井　優
	電子情報科１年	近藤　永樹
	建築設備科１年	豊原　剛
高校	普通科２年	鈴木　智之
	〃　２年	山口　隆志
	〃　３年	吉田　慎吾

外井　寛一氏（造Ｓ19年卒広島県支部長）

広島県支部の支部長である外井寛一氏は長年の鳥獣の保護に尽力された功績を認められ平成７年６月23日宮下環境庁長官より大臣表彰を受けられました。全国に20万人の猟友がいますが大臣表彰を受けたのは氏１名のみです。



表彰状

外井寛一殿

あなたは多年にわたり鳥獣の保護及び有害鳥獣の駆除狩猟事故の防止等狩猟の適正化に尽力されその功績は顕著なものがあります

よって狩猟生活環境事業創設三周年にあたりこれを表彰します

平成七年六月二十三日

環境大臣 宮下創

河本　洋次氏（大電Ｓ35年卒）

平成８年１月17日、日刊工業新聞社より、中堅・中小企業の優れた経営者として表彰された。氏は東邦電子株式会社の創立者で、他２社の代表および理事長、団体役員を兼任されております。

昭和59年には相模原市から、優良工場として表彰、平成７年には、中小企業庁長官賞受賞

訃報　謹んでご冥福をお祈りします

島田　金次　前千葉県支部長　平成７．８．23　逝去

外山　義一　静岡県副支部長　平成７．９．10　逝去

高橋　璋　元工学院大学応用化学科教授　平成７．11．13　逝去

平田　助三　大阪副支部長　平成８．２．20　逝去

平川　紀一　工学院大学名誉教授　平成８．３．１　逝去

坂口　義雄　名誉会員・元長崎県支部長　平成８．３．12　逝去

関口　城吉　名誉会員・川崎支部名誉支部長　平成８．３．27　逝去

● 震災募金者名簿

阪神・淡路大震災義援金結果報告

昨年１月17日発生した阪神・淡路大震災に際して義援金を募集致しましたところ、各方面の方々よりご協力を頂きまして、総額1,000万円を兵庫県支部にお送りする事が出来ました。ご協力に対して厚くお礼申し上げますと共にご応募下さいました方々について下記の通りご報告致します。

◇募金内容　　単位　円

個人	（内容別掲）	2,598,168
支部	（内容別掲）	2,024,000
同窓会	（６同窓会）	3,000,000
校友会		2,377,832
合計		10,000,000

◇支部

支部名	金額	支部名	金額
北海道	200,000 円	新潟県	156,000 円
青森県	170,000	石川県	20,000
岩手県	5,000	福井県	100,000
茨城県	50,000	山梨県	115,000
栃木県	30,000	長野県	30,000
埼玉県西	20,000	静岡県	50,000
千葉県	50,000	島根県	65,000
東京	100,000	山口県	200,000
新宿	70,000	高知県	10,000
中野	25,000	熊本県	20,000
八南	5,000	大分県	10,000
川崎		沖縄県	50,000
横浜		台湾	40,000
湘南	233,000	旧板橋	150,000
相模			
西湘			
湘南	10,000		
西湘	40,000	合計	2,024,000

◇個人

91,108円　佐宗　鶴男

50,000円　田積　晃

30,000円　佐々木秀勝　高野　奏　南雲　芳夫

28,000円　酒井　史生

23,000円　板谷　信

21,000円　中井　孝尚

20,000円　木下　忠雄　田中　博国　吉永　浩三

15,000円　石成　和男

10,000円　白石　進　鈴木　進　平本　清孝

13,000円　梶野　和己

12,000円　林　和彦

11,000円　小森谷　昭　吉岡　利幸　穐本　佳能　足立　剛一　阿部　洵　有川　寿一　池田　和夫　稲見　俊夫　伊保内　賢　上船　幸喜　内山　太　榎本　忠良　太田　定吉　太田　雅康

大谷　一夫　小高　鎮夫　笠原　又一　片岡　国牟　金子代次郎　金田　昭治　川上　俊夫　河本　洋次　菊田　征平　菊地　四郎　北澤　興一　草野　邁　蔵持　実　小山晃一郎　佐久間惣喜　佐合　道也　佐藤　正吾　島田　浩行　清水寛一郎　清水　利治　杉坂　憲三　関　善司　関口　勇　関戸　皎　高木　雅行　高橋　孝治　高橋こと子　瀧島平八郎　出井　久　谷口　弘明　谷口　宗彦　土屋　正臣　寺島　敬二　外山　和之　中島　孝明　中嶋　泰　長嶋　秀世　西尾　順文　秦　君興　馬場　則男　林　王奎　広間　元夫　北郷　薫　南迫　哲也　宮崎　勝弘

9,060円　武笠　忠　武藤　憲司　村野　稔　望月　大介　安原　豊　山崎　隆一　山田　文昭　湯川　治夫　吉永　俊明

5,000円　若栗　徳男

9,000円　石井　幸男　須藤喜八郎　砂田　泰彦　西山　徹　広野　靖二

8,000円　菊地　忠雄　坂田　佳昭

7,000円　関口　城吉

6,000円　阿部　立実　綾部　努　伊豆田初生　板倉　利徹　岩寄　幸雄　太田城太郎　小沢　顕　賀数　保男　木田　雄一　久慈　英樹　郡山　寛樹　小松　寿　関口　隆司　館野　春吉　寺尾　令子　寺田　邦男

永澤　達夫　中村　道良　浜野二三雄　原　正男　松本　誠　横島　信雄　和田　浩　浅見　欣司　朝山　邦夫　井出　英人　伊藤　喜章　岩田　俊二　内野　公　蛯原　隆　江袋　林蔵　大勝　靖一　大野　進　大橋　一正　織野　善夫　金尾　武彦　河端　茂樹　木村幸三郎　熊谷　建伸　久留須一郎　後藤　則義　小早川庸行　坂口　義雄　桜井　哲照　島村　恒夫　白河　昭三　進藤舜一郎　曽雌　久義　高田　芳矩　竹花　有也　竹本　正勝　田中　里志　丹　春雄　恒松　良一　土井　和正　中嶋　一　中場十三郎　中村　靖男　林　光次

樋口　利一
藤田　定一
船越　勇
星川　敏夫
松為　迪夫
間宮眞佐人
三宅　捷夫
宮沢　正義
森山　健次
村井　巌
安江　正光
山口　明男
横山　修一
米沢　隆男

4,000円
酒井　康雄
阪本　英敬
関根　壮司
蓮池　嘉和

3,000円
合田　和弘
青木　一訓
青木　悟
青木　光夫
青木　元夫
赤木　強
赤羽　彰雄
秋田　勝也
秋元　敏雄
秋山　功
秋山　仁士
浅賀　義仁
浅見　敏明
浅見　正就
阿部　清節
阿部　次郎
阿部　信義
荒井　敏光
荒川　幸雄
蟻川　幸久
蟻浪　亨
安藤　建
飯塚　健二
五十嵐嘉和
五十嵐良樹
伊沢　賀英
石川　太一
石倉　俊晴
石田　幸雄
石塚初太郎

石渡　松男
泉沢　包典
市之瀬　潔
伊藤　悦男
伊藤　長市
伊藤　勉
伊藤　敏博
稲垣　博
井上　坦純
井上　正道
猪又　康弘
伊原　政勝
井本　肇
植原　裕治
浦田　精一
浦野　一雪
榎本　雅治
大川　晶生
大竹　政雄
大塚　浩正
大槻　勝敏
大野　寛
大場　信二
大原総三郎
岡田　浩行
荻島　泉
小倉　哲雄
小田　順一
落合　剋史
小内　実
小野　幸男
小野垣　仁
小原　征七
恩田　聡
加賀　良雄
角田　俊治
笠松　憲一
梶山　昇
片瀬　紘一
片平　朋久
加藤　進
加藤　富雄
加藤　信夫
加藤　正芳
金井　紀隆
金子　充
亀井　義和
河内　章
川島貝次郎
河村　忠
河本　康人
神田　太樹

菅野　久吉
聞間　至
菊池　昭夫
北中　才介
北原　恵一
木次　富夫
城所　国夫
木村　雅俊
木村　光孝
清村　義邦
久慈　英樹
鯨岡　信夫
熊谷　茂夫
黒川　弘道
黒米　富男
合田　房雄
古賀　誠
腰越　孝夫
小菅　俊夫
児玉　敏昭
後藤弘太郎
小林　宏一
小林荘一郎
小林　鶴夫
小林　治二
小林　博人
小林　秀圀
小宮山健二
小柳　百合
小柳　雄彦
小山　和男
近藤　正次
近藤　隼一
斉藤　英介
斉藤　実
斉藤　信二
斉藤　廣志
酒井　紘一
榊原巳之助
坂本　武弘
佐久間正至
佐久間康彰
桜井雄一郎
佐々木一行
佐々木　大
佐藤　金光
佐藤　栄
佐藤　常夫
佐藤　亨
佐藤　征洋
佐藤三千登
佐野　博

沢野　基泰
獅子倉　洋
柴田　章
渋谷　栄二
島崎　一巳
下里　庄一
下山　紀男
白石　純
白石　穣
白井　良平
白樫潤一郎
新保　正忠
新堀　正
菅沼　功
杉山　昇
図司　正宏
鈴木　克昌
鈴木公太郎
鈴木　紘
鈴木　治八
鈴木俊一郎
鈴木　靖方
鈴木　康雄
住野　和男
関田　弘美
瀬戸　朋彦
外池　孝雄
外川　譲二
染谷　勝市
醍醐　一郎
高井　富弘
高島　億太
高巣　光男
高野　正規
高橋　恒通
高橋　修
高橋　和彦
高橋　庫治
高橋　俊則
高橋富士雄
田上　順一
高山　泰男
武川　恒幸
武田　信夫
武田　豊
田崎　徹
田島　邦久
田島　秀夫
只野英二郎
橘　修三
田中　昭男
田中　清美

田中　新一
田中　輝男
田中　晴樹
田中真樹子
田中美知男
田辺　洋一
田村　哲士
田屋　茂雄
田力　辰三
千葉　栄夫
千葉　養一
津久井雄司
土屋　恵邑
堤　泰造
角井　郁夫
角田　匡子
坪内　裕
寺尾　建蔵
土井　毅
杜沢　達美
戸田　和良
栃谷　茂
友広　康男
内藤　洋
永井　三男
永尾　誠一
中川　栄一
中島　治郎
中島　敏雄
中島　正男
中西　塞
中野　英樹
中原　勉
仲　秀幸
仲村　栄一
中村　輝一
中村　登
中村　英雄
中村　好男
中山　隆一
南口　恒夫
西　保
西原　栄
西室　健一
新田　康雄
入田　雅文
沼尾　武志
野坂　彬
野田　修
萩原　豊
朴　寿鐵
箱崎　行雄

橋本　繁樹
長谷部賢一
畠山　和男
林　秀二郎
林　鐵雄
林　吉男
原崎　一彦
東山　泰之
樋川　正輝
日下田　稔
平井　一郎
広井　邦彦
福島　暢之
福田　芳雄
藤崎　正晃
藤野　道正
藤本　健一
古橋　良光
祝　喜久夫
堀川鉄太郎
本間　博之
正木　健三
町田　知之
町田　彌
松井　和明
松尾　幹
松尾　茂
松嶋　高司
松本　一男
松本　洋一
三浦　正昭
水村　健一
光岡駿太郎
水戸　詩子
南　弘
峰岸　俊郎
箕輪　武秀
宮川　宗敏
宮坂　俊文
宮崎　仁嗣
宮林　功

1,000円
宮本　義昭
向山　茂樹
武藤　正弘
村田　誠孝
室井　均
望月　友二
森田　剛治
森田　秀男
森　正雄
諸田　勇志
安川　三郎

安田　和雄
柳沢　忠明
山形　始
山口　寅吉
山崎　太士
山科　茂
山田　潤一
山谷　山治
山本　岳彦
湯沢　俊次
与儀　清春
横沢　達
横田　智彦
横地　良成
横山　忠雄
吉井　明
吉岡　暘一
吉田　一茂
吉田さおり
吉田　定彦
吉田　雄次
吉田　恵紀
吉永　邦雄
吉浜　一
竜嵜　敏
脇谷　安吉
渡辺　聰

2,000円
五十嵐　功
永楽　敏
大澤　泰一
大滝　重美
北村　菊男
佐藤　修治
佐藤　信一
中尾　英明
西原　康二
浜田　肇

太田　正利
岡安　彰
加藤喜太郎
小林　克弥
高久　嘉
高橋　静昭
徳納　秀明
古屋　留三
本多　恵治
松前　浩
山本　清

平成7年度収支計算書

平成7年4月1日から平成8年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
(収入の部)			
基本財産運用収入	220,000	230,000	△ 10,000
基本財産利息収入	(220,000)	(230,000)	(△ 10,000)
会費収入	32,261,000	32,261,000	0
会費収入	(32,261,000)	(32,261,000)	(0)
維持協力会費収入	3,500,000	1,664,000	1,836,000
維持協力会費収入	(3,500,000)	(1,664,000)	(1,836,000)
大震災募金収入	0	10,657,501	△10,657,501
募金収入6同窓会	(0)	(3,000,000)	(△ 3,000,000)
募金収入その他	(0)	(4,651,168)	(△ 4,651,168)
建築同窓会寄贈	(0)	(3,006,333)	(△ 3,006,333)
雑収入	3,734,000	4,205,484	△ 471,484
受取利息・配当	(3,734,000)	(3,957,273)	(△ 223,273)
雑収入	(0)	(248,211)	(△ 248,211)
特定預金取崩収入	0	3,200,000	△ 3,200,000
協力会費取崩収入	(0)	(3,200,000)	(△ 3,200,000)
当期収入合計 (A)	39,715,000	52,217,985	△12,502,985
前期繰越収支差額	3,000,000	3,048,511	△ 48,511
収入合計 (B)	42,715,000	55,266,496	△12,551,496
(支出の部)			
事業費	17,049,000	29,109,581	△12,060,581
会報・出版費	(2,530,000)	(2,141,782)	(388,218)
学生・生徒奨励金	(1,250,000)	(1,327,615)	(△ 77,615)
通信費	(5,910,000)	(5,303,230)	(606,770)
印刷費	(1,458,000)	(1,442,040)	(15,960)
協力会費割戻金	(1,300,000)	(1,024,200)	(275,800)
給与手当	(3,822,000)	(3,321,365)	(500,635)
福利厚生費	(379,000)	(143,016)	(235,984)
(大震災対策費)			
募金贈呈費	(0)	(10,000,000)	(△10,000,000)
大震災調査活動費	(0)	(3,006,333)	(△ 3,006,333)
小計	0	13,006,333	△13,006,333
学園援助費	(0)	(1,000,000)	(△ 1,000,000)
学生活動援助費	(400,000)	(400,000)	(0)
管理費	19,166,000	17,009,910	2,156,090
総会等大会費	(2,300,000)	(2,191,123)	(108,877)
本部会議費	(937,000)	(1,071,108)	(△ 134,108)
役員交通費	(800,000)	(732,672)	(67,328)
給与手当	(4,085,000)	(4,084,825)	(175)
福利厚生費	(393,000)	(433,133)	(△ 40,133)
旅費・交通費	(200,000)	(5,820)	(194,180)
組織対策費	(4,500,000)	(4,483,011)	(16,989)
広報部費	(200,000)	(89,062)	(110,938)
組織部費	(200,000)	(11,380)	(188,620)
事業部費	(190,000)	(32,690)	(157,310)
企画部費	(500,000)	(297,500)	(202,500)
通信費	(466,000)	(570,441)	(△ 104,441)
振替手数料	(100,000)	(58,914)	(41,086)
事務用品費	(700,000)	(616,980)	(83,020)
消耗備品費	(100,000)	(69,892)	(30,108)
印刷製本費	(877,000)	(599,070)	(277,930)
修繕費	(100,000)	(129,986)	(△ 29,986)
賃借費	(280,000)	(296,022)	(△ 16,022)
対外費	(200,000)	(15,420)	(184,580)
慶弔費	(300,000)	(290,900)	(9,100)
公租公課	(130,000)	(32,200)	(97,800)
雑費	(300,000)	(97,761)	(202,239)
調整費	(1,308,000)	(800,000)	(508,000)
固定資産取得支出	300,000	299,406	594
投資有価証券購入支出	(300,000)	(299,406)	(594)
特定預金支出	3,200,000	4,415,720	△ 1,215,720
会館建設引当預金支出	(0)	(15,720)	(△ 15,720)
協力会費引当預金支出	(2,500,000)	(3,700,000)	(△ 1,200,000)
減価償却引当預金支出	(200,000)	(200,000)	(0)
退職給与引当預金支出	(500,000)	(500,000)	(0)
当期支出合計(C)	39,715,000	50,834,617	△11,119,617
当期収支差額(A)−(C)	0	1,383,368	△ 1,383,368
次期繰越収支差額(B)−(C)	3,000,000	4,431,879	△ 1,431,879

(注)　△印は予算比超過となる金額である。

平成7年度貸借対照表

平成8年3月31日現在

(単位：円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1.流動資産	103,309,259	1.流動負債	98,877,380
2.固定資産	128,568,683	2.固定負債	2,018,183
		3.正味財産	130,982,379
		(うち基本金)	(10,000,000)
合計	231,877,942	合計	231,877,942

平成7年度財産目録

平成8年3月31日現在

(単位：円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産		負債	
1.現金・預貯金	102,831,813	1.一般預り金	109,380
2.短期有価証券	476,446	2.在学生会費預り金	98,768,000
3.仮払金	1,000	3.退職給与引当金	2,018,183
固定資産		正味財産	130,982,379
1.基本財産引当預金	10,000,000	(うち基本金)	(10,000,000)
2.什器備品	5,425,741		
3.電話加入権	102,800		
4.長期預金	113,040,142		
合計	231,877,942	合計	231,877,942

平成７年度事業報告(案)

本年度は、昨年１月に起きた阪神淡路大震災によって、被害に遇われた会員の皆様に再び立ち上がって頂きたいと願って、昨年度から引き続き募金活動を行いました。多くの会員諸兄をはじめ、支部および同窓会から多額のご寄付をいただき、神戸支部へ送ることができました。御礼申し上げます。

本法人の社会的使命である事業は、中学校開校を記念して学園へ100万円、学生･生徒の教育活動に約173万円を贈ることができました。

平成８年３月31日現在、本年あらたに正会員になられた約2,200名(機械352名、応化294名、電気320名、建築334名、高校395名、専門496名) を含め、住所判明の会員数は約57,250人となっています。

阪神淡路大震災の募金活動およびその他の活動報告は、会報に記載してあります。

平成８年度事業計画(案)

本年度は、全国大会の年であり、既に東京で開催することが決定しております。本部としては、これを新宿テクノキャンパス落成記念と銘を打ち、2,000名の参加を目指して、担当の東京支部の支援を行います。

平成11年度は、本会の前身「工手学校同窓会」から数えて、創立 100年になります。本年から100周年記念の準備を進めてゆきます。

学園および学生・生徒に対する援助は、昨年に続き学園祭等に対する援助・優秀学生に対する奨励金の贈呈をいたします。

平成８年度収支予算書(案)

平成８年４月１日から平成９年３月31日まで

(単位：千円)
△印は前年度より減を示す

科　　目	予算額	前年度予算額	増　減
１収入の部			
基本財産収入	145	220	△ 75
会費収入(６単体)	34,090	32,261	1,829
協力会費収入	3,500	3,500	
雑収入	3,400	3,734	△ 334
当期収入合計	41,135	39,715	1,420
前期繰越収支差額	3,000	3,000	
収　入　合　計	44,135	42,715	1,420
２支出の部			
●事業費	(16,992)	(16,649)	(343)
会報・出版費	2,530	2,530	
学生奨励金	1,250	1,250	
通信費	6,310	5,910	400
印刷費	1,494	1,458	36
協力会費割戻金	600	1,300	△ 700
給与手当	3,667	3,822	△ 155
福利厚生費	341	379	△ 38
学園援助費	800	0	800
●管理費	(20,643)	(19,566)	(1,077)
総会等大会費	3,700	2,300	1,400
本部会議費	913	937	△ 24
役員交通費	800	800	
給与手当	4,244	4,085	159
福利厚生費	379	393	△ 14
旅費交通費	200	200	
組織対策費	4,170	4,500	△ 330
広報部費	400	200	200
組織部費	200	200	
事業部費	190	190	
企画部費	400	500	△ 100
通信費	483	466	17
振替手数料	100	100	
事務用品費	700	700	
消耗備品費	100	100	
印刷製本費	527	877	△ 350
修繕費	100	100	
賃借費	280	280	
対外費	100	200	△ 100
慶弔費	300	300	
公租公課	130	130	
雑費	300	300	
調整費	1,927	1,708	219
●固定資産取得支出	(300)	(300)	
投資有価証券購入	300	300	
●積立預金	(3,200)	(3,200)	
会館積立預金	0	0	
協力会費積立預金	2,500	2,500	
減価償却引当預金	200	200	
退職給与引当預金	500	500	
当期支出合計	41,135	39,715	1,420
当期繰越収支差額			
次期繰越収支差額	3,000	3,000	

校友会新年懇親会報告

恒例の新年懇親会は、１月20日新宿校舎28階会議室にて、学園側より北郷理事長殿を始め多数の方々の出席を頂き開催致しました。

今年は10月に新宿キャンパスの完成を記念し、2000人を集めた全国大会を計画しておりそのため、新年懇親会には例年より多くの方にご案内致しましたところ、昨年に比べ50％以上の多くの方々にご参加頂き盛大に行うことが出来ました。

尚、席上昨年の阪神・淡路大震災の義援金について、兵庫県支部の岡本支部長より皆様のご好意に対して深い感謝を述べられると共に、被害に会った会員の皆様が復興に努力されていることなど報告がありましたので、特にご報告申上げます。

鏡割り

万歳三唱

挨拶される岡本支部長

会場風景

編集後記

本号より新しいメンバーにて編集致します。編集方針としては、写真を増やし字体を大きくして“読みやすく親しめる会報”を目標に致します。会報は広報であるばかりでなく皆様のものです。より良い会報となる様に皆様のご協力をお願い致します。

岩田　五十嵐　田中　榎本　椎塚　吉岡　阿部

〔広報部〕

副会長	榎本　忠良
部　長	田中　博国
担当理事	関口　勇
〃	吉岡　利幸
〃	椎塚　久雄
〃	岩田　俊二
〃	五十嵐　功
〃	阿部　洵

●全国大会

第12回全国大会（東京大会）開催のお知らせ

〔新宿テクノキャンパス落成記念全国大会（全国2000名大集会）〕

社団法人工学院大学校友会
会　長　南雲　芳夫
大会実行委員長　坂田　佳昭

・*学園の校友よ、学び舎新宿淀橋へ*
ご家族とともに……ご参加ください！

いよいよ、第12回全国大会が、日本最高層の工科大学に変貌した新宿キャンパスに於いて、学園及び４支部（東京、新宿、中野、八南）役員協力のもと別掲の日程で開催されます。キャンパス見学を始めとして種々の催しが開催されますのでご家族お揃いで、是非ご参加ください。

●開催日　平成８年10月26日（土曜日）
●会　場　工学院大学新宿テクノキャンパス棟
●会　費　8000円／人（ご家族は無料招待）

●スケジュール
【受　付】　10：00～13：00　新宿校舎　１階
新宿キャンパス見学希望者受付は
10：00～12：00迄とします。
【式　典】　13：00～13：30　３階大ホール
【講　演】　13：30～15：00　３階大ホール
演題「ドラマと人間」
ジェームス三木　先生
【祝賀会】　15：30～17：30　１階アトリウム
アトラクション付きです

◆前日の催し　平成８年10月25日（金曜日）
◇　全国校友親睦ゴルフ大会（有料）
◇　八王子キャンパス見学
◆当日の催し　平成８年10月26日（土曜日）
◇　新宿キャンパス見学
◇　記念式典・記念講演会
◇　祝賀パーティ
◇　単体同窓集会、異業種交流集会
◇　研究室ＯＢ集会、恩師を囲む会
◆翌日の催し　平成８年10月27日（日曜日）
◇　江戸東京博物館見学
◇　はとバス観光（有料）
◆宿泊場所の案内
◇　かどやホテル（学園より徒歩２分）
Ｓ;6500/人・Ｔ;5000/人・（収容50～60人）
◇　新宿ニューシティホテル（15分）
Ｓ;8400/人・Ｔ;7500/人・（収容200人位）
◇　新宿ワシントンホテル（10分）
Ｓ;10500/人・Ｔ;7600/人・（収容500人位）

■　参加申し込み方法
①郵便振込の場合
添付の振込用紙をご利用ください
②銀行振込の場合
第一勧業銀行新宿西口支店
普通預金口座 062－2211971
東京大会　会計　佐藤信一
■　申込締切り期限
平成８年７月31日（水曜日）必着
期限厳守でお願い致します。
■　宿泊と催しの参加申し込み
大会参加の会費納入者に改めて、宿泊の要否、催しの参加、不参加のご連絡を致しますので通知の期日までに、お申し込みください。
■　広告掲載のお願い
全国大会・記念誌の発刊に当たり、ＯＢ諸兄の会社案内、所属企業の案内広告を募集いたします。主旨に賛同され是非ご参加ください。
■　御祝い（寄付金）のお願い
全国大会・東京大会の開催に当たり、ＯＢ諸兄（個人）からの浄財を広く募集いたします。主旨にご賛同いただき是非ご協力ください。
■　問い合わせ先
ご不明な点は校友会事務局までお問い合わせ下さい。
ＴＥＬ　03－3342－2064
ＦＡＸ　03－3342－2035

・*前開催地・神戸のみなさん、ありがとう！*

第11回全国大会（神戸大会）は、朝から晴天に恵まれた平成６年10月29日（土）、神戸港メリケンパーク内の神戸海洋博物館で大会式典の開催、次いで遊覧船をチャーターしての華やかで和やかな船上交歓パーティ。北郷理事長はじめ学園関係者、校友会本部役員を含め全国各地から校友が参加して、大盛況、大好評の内に終えることができ、素晴らしい思い出になりました。

しかし、大成功の余韻も醒めやらぬ、僅か79日後に未曾有の阪神大震災に見舞われ、我々校友は皆愕然とし、心を打ち砕かれてしまいました。

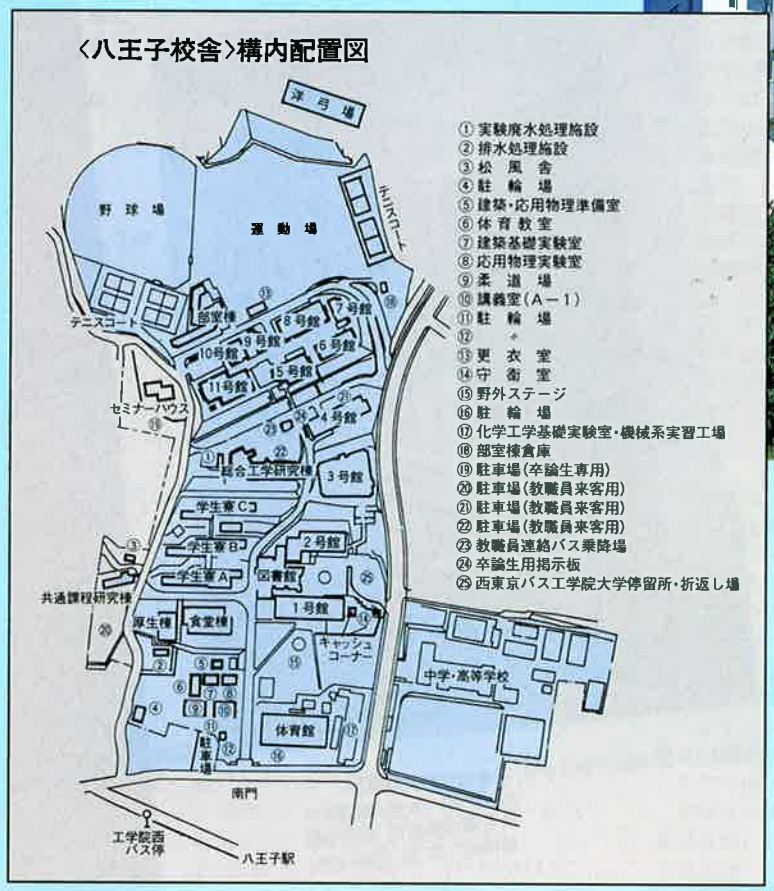
平成８年度校友会新年会に兵庫の岡本旧支部長が参加、挨拶され、その後の神戸のバイタリティある復興状態のお話を伺い校友は一様に安堵の胸を撫で下ろしたものでした。神戸淡路の校友の皆さん、皆が応援しています…頑張ってください。

〈八王子キャンパス〉

5号館

キャンパスのシンボルタワーで高速道路からもよく見えます。写真にはありませんが、最近タワー上部に「工学院大学」の看板もつけました。

〈八王子校舎〉構内配置図



校友会報44巻第1号　発行所●社団法人工学院大学校友会　〒163-91　東京都新宿郵便局私書箱第13号　東京都新宿区西新宿1-24-2 TEL03(3342)2064
振替 00130-2-91108番　発行年月日●平成8年4月25日　印刷所●弘報印刷株式会社 〒104 東京都中央区入船1-5-11 TEL (3552)9731